

## 富山市「富山の置き薬」中巻を発刊

発行：日本置き薬協会 事務局

富山市は3月1日、書籍「富山の置き薬（中巻）」を発刊した。昨年（平成31年度）3月1日に発刊した「上巻」に続く第2弾。「下巻」は令和2年度中に発刊予定。

「富山の置き薬」をテーマに著名人・文化人のエッセイやインタビュー、富山売薬の歴史や文化に関する資料などを収め、特に富山市民が郷土の歴史や文化に愛着や誇りを抱くシビックプライドを醸成するとともに、広く「富山の置き薬」をPRしている。

A5版ハードカバー、オールカラー160ページ。3,000部を発刊し、内2,200部は市内中学校や図書館、市内在住配置従事者などに配布し、800部は税込2,750円で市内主要書店などにおいて販売する。

巻頭エッセイは建築家・隈健吾氏。さらに作家の村松友視氏、女優の五大路子氏、読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏、作家の山内マリコ氏、落語家の林家木久扇氏、立川志の輔など各界30名による置き薬にまつわるエッセイを紹介。

また元文化庁長官の青柳正規氏や富山市長の森雅志氏らによる座談会「富山の置き薬とその風土そして文化」を収録しているほか、「置き薬を届ける人」のコーナーでは、富山市から宮城県に配置販売業に出張する配置業三代目の中屋如貴氏取材し、自然災害時の得意先との触れ合いなどを収めている。

さらに、「反魂丹伝説」、「富山売薬と北海道開拓」、「置き薬と文化」、「丸薬づくり」、「包装と紙」、「売薬版画」などの資料も掲載している。（薬日新聞3月5日号より転載）

その他の執筆者

齋藤慎爾（俳人）、伊東順二（美術評論家、東京芸大社会連携センター特任教授）

沖藤典子（作家、『女が職場を去る日』等）、武田邦彦（中部大学特任教授）

テラウチマサト（写真家）、深谷信介（榊博報堂スマート×都市デザイン研究所長）

森雅志（富山市長）、森詠（作家）

宮崎緑（千葉商科大学教授・鶴岡八幡宮総代）、須藤晃（音楽プロデューサー）

窪島誠一郎（作家、『父・水上勉』等）、河合民子（作家、）

平松礼二（日本画家）、吉崎達彦（エコノミスト、富山市出身、双日総合研究所）

葉祥明（絵本作家）、西修一郎（弁護士）

笠木和子（画廊オーナー）、中尾實信（医師・作家、『木戸孝允愛と憂国の生涯』等）

高橋千劔破（作家、日本ペンクラブ副会長）、名取里美（俳人）

服部公一（作曲家）、関口博巨（神奈川大学准教授、日本近世史、古文書の整理修復）

甘糟幸子（作家、『野草の料理』等）、藤崎一郎（元駐米大使）